

令和3年度業務監査報告

監事 菅原貞芳



1 法人経営・事業運営について

(1) コロナ禍における事業運営の円滑化

- ① 社会福祉法等の改正から定款や諸規定の制定や一部変更を行い、時代が求める社会福祉法人として経営理念の具現化をいっそう図ろうとしている。
- ② 全国老人福祉施設協議会が推進する介護ICT実証モデル事業施設（全国で8施設）に春圃苑が東北で唯一選定され、必要なIT機器の導入が進み、機器操作の習熟と業務の効率化が着実に図られている。
- ③ コロナ蔓延防止上、要援護高齢者への支援活動、介護フェスティバルや夏祭り等の苑として大きな地域貢献活動を中止せざるを得なかったことは残念だったが、施設内の行事については職員の工夫により大幅に変更しながら利用者様に対応されている。※(3)①⑤⑨参照

(2) 職員研修の充実

- ① 本人負担を無くして専門資格の取得がいっそう可能となるようにした結果、介護福祉士、調理師、認知症介護実践者、ユニットリーダーなど14名が新たな資格を取得することができた。
- ② コロナ禍で外部機関が実施する研修会が極端に減少し、ほとんどがオンラインでの開催となっている。そのような状況下にあっても各部署リーダーを中心にそれぞれ工夫した研修が行われていることがうかがえた。
- ③ 毎月第3木曜日の夜間に開催していた職員会議を、各拠点に整備した大型モニターにより、リモートで開催できるようになり、課長会議、主任者会議等をそれぞれの勤務場所で会議に参加できる形が定着してきた。

(3) 課長等のリーダーとの面談から

監事の質問事項について事前にプリントにまとめ、的確に回答されている各リーダーの姿が印象的だった。印象に残った部署からの話題を以下紹介したい。

- ① 地域貢献活動が難しくなってきたが、地域の高齢者の皆様に少しでも楽しみを持っていただこうと、感染防止対策を徹底し出来る範囲での外出支援行事を行うことができた。
- ② オンラインでの研修に加え、苑で購入した職務に関連する書籍を年間一人5冊以上読むことを重点目標にした。
- ③ 日頃からコミュニケーションをとっている若い職員の意欲に背中を押され、昨年度よりレベルの高い重点目標を設定することができた。